

はにい『教室外の居場所～オンラインでの学び～』 令和6年3月25日



「どうやって観察するのかな」1年生の質問に、「スクリーンを移動させながら、光源のピントを合わせて観察するんだよ。」3年生が答える。「凸レンズを通してできる像」について調べる1年生理科の実験。今年度からこの中学校では、自分のペースで過ごしたい生徒を対象に、教室外の場所（校内教育支援センター）でオンラインを活用した学びが実践されている。

令和5年度、別室を利用する生徒は、全学年で20名。生徒は登校後に時間割りを確認し、参加する授業を選択する。異学年の交流や学び直しも行われる。1人1台端末を活用し、理科室で行われている授業の様子が映し出されており、支援員や教員も、生徒と一緒に学びを進めていく。生徒たちは教員の話に耳を傾け、一緒に参加しているメンバーと話し合いながら学びを進める。「少人数という安心できる環境で、自分の思いを伝える力や、他者の考え方を認め合う力が育成されていく。」と支援員は語る。

「教室の電気を消してください。」相談室の電気が消える。「虚像はスクリーンのどちら側から見える？」理科室から生徒の質問が聞こえた。相談室では2年生が「焦点の内側に光源がある時、凸レンズの反対側から見えるのが虚像だよ。」と説明する。1年生が「やっぱり、実際に実験すると分かりやすいね。」とつぶやいた。

まとめの時間、ワークシートを使って実験を振り返る。記入後に、生徒たちが互いのシートを見せ合う。

オンラインを活用した学びを終えた子どもが、笑顔でつぶやいた。「理科室の雰囲気伝わってきて、クラスのみんと一緒に授業を受けているみたいで、楽しかった。」



『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。